

▶ 審査員 紹介

公益社団法人栃木県経済同友会 社会貢献委員長
株式会社エイム 代表取締役
生方 玉也

株式会社キッズコーポレーション 代表取締役
大塚 雅斗

栃木県
産業労働観光部 産業政策課 産業戦略推進室
課長補佐
齋藤 利也

こらぼワーク 理事長
佐藤 賢二

株式会社新朝プレス
常務取締役
高嶋 久夫

株式会社栃木銀行
法人営業部 地域創生室 室長
中野 誠

大学コンソーシアムとちぎ 事務局長
国立大学法人宇都宮大学 理事・副学長
藤井 佐知子

一般社団法人とちぎニュービジネス協議会 副会長
株式会社グリーンデイズ 代表取締役
林 書緯 (50音順・敬称略)

▶ 後援・協力企業/団体 紹介

後援

朝日新聞宇都宮総局、足利市民活動センター、NHK宇都宮放送局、株式会社エフエム栃木、国立大学法人宇都宮大学、小山市市民活動センター、かぬま市民活動広場ふらっと、佐野市市民活動センターここねっと、下野市生涯学習情報センター、株式会社下野新聞社、大学コンソーシアムとちぎ、とちぎ学生未来創造会議、栃木県、公益社団法人栃木県経済同友会、一般財団法人栃木県青年会館、一般社団法人とちぎニュービジネス協議会、株式会社栃木放送、とちぎボランティアNPOセンターぼ・ぼ・ら、とちぎ市民活動推進センターくらら、日光市民活動支援センター、野木町ボランティア支援センターきりり館、真岡市市民活動推進センター、壬生町町民活動支援センターみぶりん、読売新聞宇都宮支局

協力

宇都宮市まちづくりセンターまちぴあ

(50音順・敬称略)

▶ SPECIAL THANKS

MC/イベント構成協力：富樫奈美子、iDEA→NEXT PV作成：船田貴久、活動スライド作成：渡邊由里
運営スタッフ：五十嵐圭、篠原永知、須崎孝介、内藤さつき、濱野将行、牧田豊樹、吉田直樹、渡邊貴也、和田紋佳
(50音順・敬称略)

寄付・協賛・後援を頂いた皆様、またメンターや審査員にご協力頂いた皆様に
この場を借りまして厚く御礼申し上げます。



多くの方々に支えられた4年目のiDEA→NEXTも盛況のうちに幕を閉じました。「とちぎの新しい物語をつむぐ。」とちぎにアイデアという種を蒔くために始まったiDEA→NEXT…今年度はエントリーやシステムに多くの変更点を加え、一つの転換点を迎えた年となりました。手前味噌ではございますが、その試みはより多くのアイデアの芽を育むことができたように思います。アイデアブラッシュアップを重視したプログラムとしたことにより若者たちの成長を目の当たりにし、栃木県内の課題解決につながる力を持った若者たちがこれからも増えていくだろうという気配を今年は事務局としても感じた次第です。
今後とも、とちぎに根付いた若者の活動を支えるべくiDEA→NEXTは前進し続けますので応援よろしく申し上げます！ファイナリストたちの今後にご期待下さい！

発行月：2016年4月 発行元：NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

〒320-0808 栃木県宇都宮市宮園町8-2 松島ビル2F TEL/FAX：028-612-3341

MAIL：ysn_office@tochigi-ysn.net

OFFICIAL WEB：http://www.tochigi-ysn.net/

PROJECT WEB "SOZO"：http://sozo.tochigi-ysn.net/

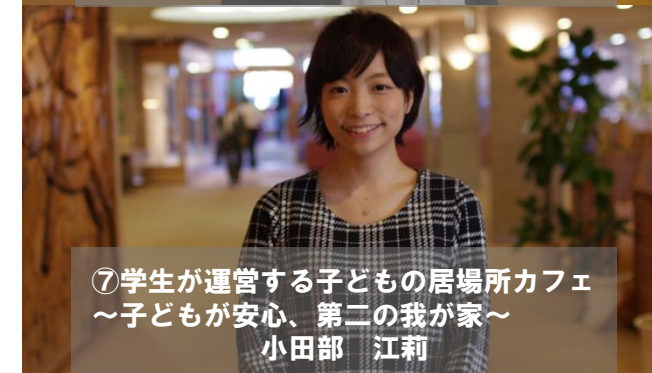


若者による社会をよくなるスタートアッププログラム

News Letter 2016

とちぎの新しい物語をつむぐ。

若者たちの軌跡



▶ What's “iDEA→NEXT”？

ヒトとマチがイキイキとした地域を創るため、社会に新しい価値を提供する若者を数多く輩出し、地域の困りごとの解決や社会を良くする活動を促進する、若者がチャレンジするステージ。

また、若者のアイデアやアクションを見える化し、企業や地域で活動する人々と若者が繋がる場です。



▶ “iDEA→NEXT”の流れ



2015年10月3日(土)の「ソーシャルビジネスフォーラム」をキックオフイベントとし、始まった今年度のアイデア募集。その後も11月4日(水)～12月2日(水)に社会的起業(ソーシャルビジネス)を学ぶ全4回の連続講座「ソーシャルビジネスセミナー」を開催し、12月10日までアイデアを受付けしました。

▶ 1/16 (sat) -1/17 (sun) iDEA→NEXTギャザリング

年が明けて間もなく、エントリー者の初顔合わせとなる合宿型のアイデアブラッシュアッププログラムを実施。まず栃木県を代表する社会起業家の一人、有限会社ドンカメ代表取締役 小久保行雄さんにソーシャルビジネスの必要性や事業化することの大切さなどお話をしました。

また午後からはエントリー者たちによるアイデアプレゼンテーションを実施。

中小企業診断士の資格を有し、栃木県庁の近くで古民家カフェ「cafe Mario ～休みの国～」を経営されている



株式会社キップルネットワーク代表取締役 清嶋磨利夫さんからも起業についてのお話をいただきました。

その後はいよいよこの合宿の目玉、県内の先駆的事業者の皆様(メンター)にご協力頂いての2日間のブラッシュアップに。メンターとはエントリー者のアイデアに対して経営者/実践者としての視点から様々なアドバイスを下さる方々です。(※詳細7ページ)

最後は2日間の振り返りを行い、一本締めで締めくくり。こうして今年度のiDEA→NEXT2016は幕を開けました。

▶ 情報発信

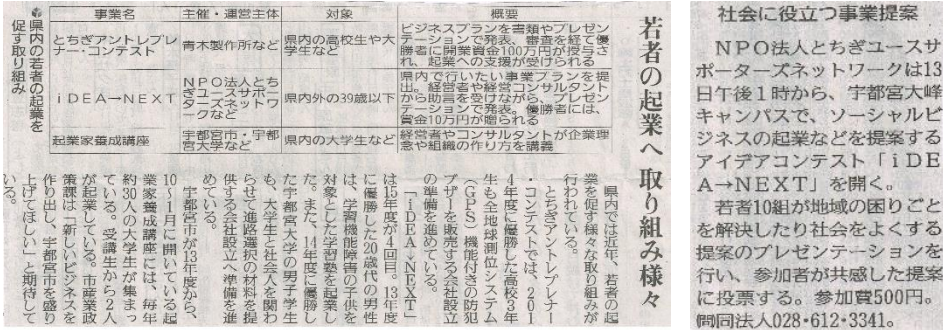
メルマガ＝延べ2,510通発信

2016.01.13 読売新聞31面(栃木面)

「若者の起業へ 取り組み様々」

2016.03.10 下野新聞12面(経済面)

「社会に役立つ事業提案」



▶ 協賛企業・個人寄付者 紹介

協賛企業A

株式会社栃木銀行

協賛企業B

株式会社アール・ティー・シー

株式会社キッズコーポレーション

こらぼワーク

株式会社ジード

株式会社セカンドブーム

はやき風株式会社

株式会社ファーム・アンド・ファーム・カンパニー

協賛企業C

アイ・こころのクリニック

株式会社五光宇都宮店

株式会社サムライトサムシング

株式会社ドクターリフォーム・サンセイ

FAAVO宇都宮

個人寄付者

池田 秀昭

勇 伸佳

入江 保男

菊池 浩史

佐藤 大地

鈴木 和彦

竹之木進 肇

土崎 雄祐

守友 裕一

内藤 さつき

堀内 初美

松本 政憲

松本 法判

村上 勝彦

森 久美子

森 隆一郎

湯本 浩之

(50音順・敬称略)

なお、読み終えた本を寄付して頑張る若者を応援する「ホンdeチャレンジ」で寄付して頂いた延べ6,256冊、計113,690円をiDEA→NEXTの運営資金に充てさせて頂きました。

今年度の寄付・協賛金 計 ¥608,270

▶ メンター 紹介

宇都宮市まちづくりセンターまちぴあ
センター長
安藤 正知

合同会社Crew
代表社員
伊川 夢起

株式会社キップルネットワーク(café Mario)
代表取締役
清嶋 磨利夫

ミヤラジ
パーソナリティ
篠原 永知

こらぼワーク
専務理事
田中 義博

NPO法人トチギ環境未来基地
理事長
塚本 竜也

特定非営利活動法人栃木DARC
アウトリーチ部 部長
栃原 晋太郎

一般社団法人栃木県若年者支援機構
理事長
中野 謙作

株式会社ティビィシー・スキヤット
キャリアアドバイザー
野崎 千晶

栃木県
総合政策部 地域振興課 地域振興担当 主任
三村 友宏

社会福祉法人宇都宮市社会福祉協議会
地域福祉課
八木 茂

(50音順・敬称略)

▶ **ファイナリストの声**

iDEA→NEXT2016 一連のプログラムを経験したファイナリストたちの声をお届けします。（一部抜粋）

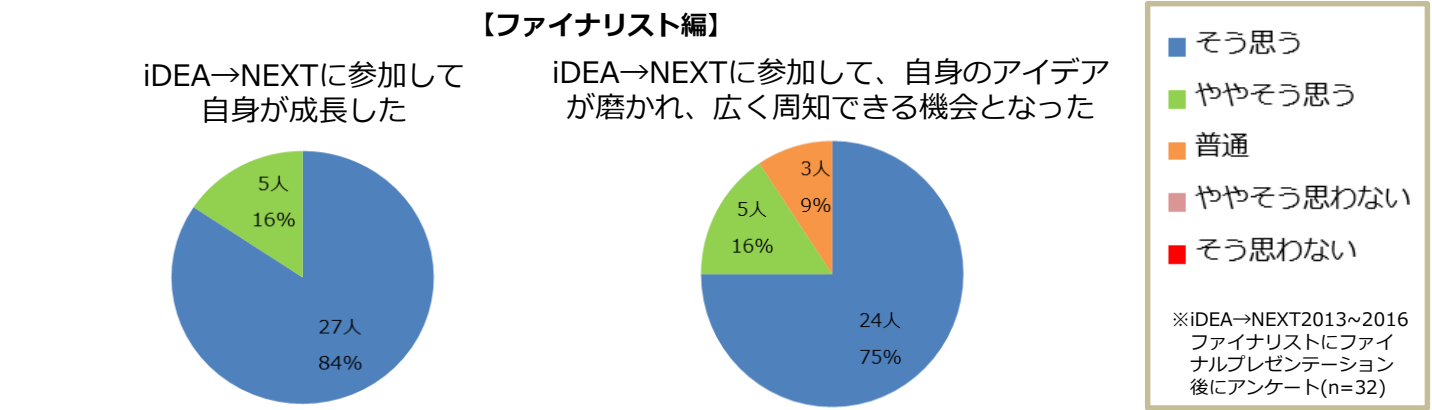
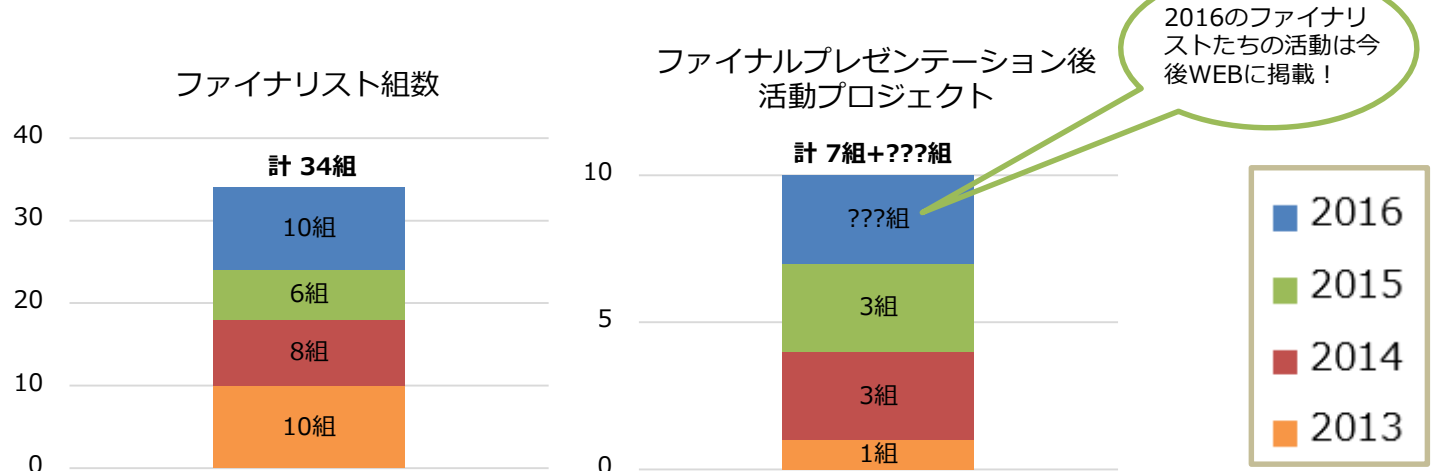
- 伝えたい内容や知っていること、やりたいことがたくさんあって、情報をわかりやすくシンプルに提供することができていなかった。今回参加して明確になった。私の考えていることや、やろうとしていることを肯定してもらったり、応援してもらえたことがとても大きな力になった。思っただけでも、ひっそり考えていただけだったので。表現する勇気をもらいました。
- 栃木県内に、こんなに熱意があり、社会課題解決に取り組んでいたりする方々のネットワークがあることを初めて知った。今後自分が多く直面するであろう「生みの苦しみ」を経験できた。一つの経験と結果を出したことで、今後行動をしていく原動力のようなものが自分の中に生まれた。
- アイデアブラッシュアップをしていく中で、自分が本当にやりたいことが見えた。様々なつながりや応援してくれる人ができた。

▶ **オーディエンスの声**

ファイナルプレゼンテーション当日のオーディエンス（一般観覧者）の声をお届けします。（一部抜粋）

- 今回は本当に点数をつけるのに迷いました。どれも素晴らしい内容だったので、何らかの形で応援していきたいです。
- 年々アイデアの質が高くなっている。オーディエンスの数も増えているように感じます。ビシビシと刺激を受けて帰れそうです。
- 大きな目標を持って発表している人が多く、とても刺激になりました。
- ファイナリストの熱い想いや将来の夢などの話を聞けてよかったです。
- 審査員の方のファイナリストへ向けての事業化に向けての厳しいコメントは愛あるものと思えました。

▶ **iDEA→NEXT データ**



▶ **1/26(Tue)- ブラッシュアップ研修**



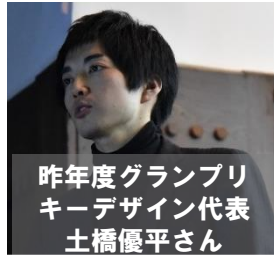
iDEA→NEXTギャザリングの余韻も覚めやらぬまま、9日後の1月26日からブラッシュアップ研修が開始！毎週火曜日夜にエントリー者が集い、ギャザリング同様、エントリー者たちとメンターとの熱い話し合いが続いていきます。集まりは夜にも関わらず、中には日付を跨ごうかというほど、話し合いが続く日も…！ブラッシュアップによってエントリー者たちのアイデアは深まり広まっていきましたが、それは同時に彼・彼女らを悩ますことにもなり、自分自身や社会課題との戦いは続きます。

▶ **3/1(Tue) 一次審査**



3月1日（火）にはファイナルプレゼンテーション登壇者（ファイナリスト）を決定すべく一次審査となるプレゼンテーションを実施。応募したエントリー者はここまでは全員参加してきましたが、ここで一定の成果を求められます。エントリー者に今年度よりiDEA→NEXTと連動している宇都宮大学の講義「起業の実際と理論」（当会が運営）でのコンテストでグランプリを獲得した1組を加えプレゼンテーションを行いました。厳正な審査の結果、選ばれたファイナリストは10組。しかし、その余韻に浸る間もなく、13日に迫ったファイナルプレゼンテーションに向けてのアイデアブラッシュアップの日は続いていきました。

▶ 3/13 (sun) iDEA→NEXT 2016 ファイナルプレゼンテーション



昨年度グランプリ
キーデザイン代表
土橋優平さん



3月13日には最終プログラムのファイナルプレゼンテーションを開催。去年に引き続き、宇都宮大学峰キャンパス峰が丘講堂で行いました。1月のスタートから2ヶ月間のブラッシュアップを経た珠玉の10組のアイデアプレゼンテーションは時間の長さを感じさせないほどに、あっという間に過ぎていきました。

これまでのブラッシュアッププログラムの中でプレゼンテーションをしたことがあるファイナリストたちも、一般の方に向けて初めてということもあり、緊張の色も見受けられましたが、2ヶ月間の自信がそうさせるのか、堂々としたプレゼンテーションが続き、オーディエンス（一般観覧者）の方もじっくり聞き入っている様子が印象的でした。

また10組のプレゼンテーションが終了し、投票タイムと同時に並行して、ファイナリストたちが自分のアイデアを張り出したボードの前に立ち、オーディエンスの方からの質問を受ける「ミニポスターセッション」を実施。ブースでは真剣な表情で話し合う姿や談笑する姿なども見受けられ、昨年からはまったこの取り組みは、ファイナリストとオーディエンスの距離が近く、好評をいただいています。

また昨年度グランプリ報告としてキーデザイン代表 土橋優平さんからの受賞後1年間の活動報告がありました。土橋さんの口からは挑戦・そこからの学びなどが語られていき、この1年間で精力的に活動されていた様子がうかがえました。

▶ 審査結果

すべてのプログラムが終了し、残すはいよいよ表彰のみ…

表彰は昨年度に引き続き「グランプリ」「審査員特別賞」「オーディエンス特別賞」そして企業賞があります。

投票や審査の結果、各賞の受賞は以下の通りとなりました。

- ・ **グランプリ**（オーディエンスと審査員の両方の支持を集めたアイデア）
「自分たちでナリワイを創る家 ～発達障害者の自立を支えるシェアハウス～」 中尾貞人
- ・ **審査員特別賞**（審査員による選考で選ばれたアイデア）
「楽しむ、つながる、変わる。アダルトチルドレン人生再出発プロジェクト」 阿部寛
- ・ **オーディエンス特別賞**（最も多くのオーディエンスから支持を集めたアイデア）
「うつのみやコミュニティガーデン」 小林かぐみ
- ・ **とちぎんグッドアイデア賞**（協賛企業：株式会社栃木銀行による直接授賞）
「ママの不安がワクワクに変わる「超ローカル！地域情報シェアサイト“MaiMachi”」 MaiMachi

皆さん誠におめでとうございます。

今回グランプリ受賞になりました中尾貞人さんにインタビューにご協力頂きました。



とちぎんグッドアイデア賞
MaiMachi（マイマチ）の皆さん



オーディエンス特別賞
小林かぐみさん



審査員特別賞
阿部寛さん



グランプリ
中尾貞人さん

Q：グランプリ受賞、誠におめでとうございます！
今の気持ちを聞かせて下さい。

A：自分のアイデアを応援して下さる人がたくさんいることに、感謝の気持ちでいっぱいです。当日、プレゼンテーションを聴いて下さった皆さんが記入したNEXTシートを拝見させていただきまして。そこで様々なご意見やご感想を頂戴したことが、今後の活動の励みになりました。本当にありがとうございました。

Q：スポーツショップのバイヤー・エリアマネージャーから世界一周…そして現在はグループホームでのお仕事…と、失礼ながらとても珍しい経歴が目を引きました。それぞれの行動を起こすきっかけや転機があれば教えてください。

A：前職のスポーツショップでは社会人として様々な勉強をさせていただき、感謝の念に堪えませんでした。ただ続けていくうちに「誰の為に」「何のために」仕事をするのかを、自分の中で見失ってしまい、自分の価値観を見直すために思い切って会社を辞め、世界一周の旅に出ました。その旅を通して世界には様々な問題があることを、知識だけでなく体験として知ることができました。そして知ってしまったことをそのまま放り出して、何事もなかったかのように元の生活に戻ることはできなかった。世界の問題を自分がどうこうできるわけではありませんが「ハチドリの一とずく」のように、ただ自分ができるところをただ決め、ご縁があった栃木県鹿沼市でグループホームの仕事を始めました。

Q：発達障害者の抱える課題を捉え、前向きな解決策を示すアイデアだと感じさせられました。前から暖めていたアイデアだったのですか？

A：いえ、まったくです。最初は発達障害者が資格を取得するための支援がアイデアでした。普段からグループホームで知的障害や発達障害のある方達と様々な話をしていますし、学習支援などもしています。そんな生活をしているからなのでしょうか、アドバイスを受けるたびに「違和感」を感じていました。そしてブラッシュアップを重ねていくうちに、その「違和感」の正体に気付きました。それは現在の社会システムに彼らを無意識に当てはめて考えている自分がいるということでした。そこからは、今まで悩んでいたのが嘘だったかのようにアイデアがまとまってきました。シェアハウス、ナリワイという考え方は、僕が今まで体験してきたことがベースになっています。

Q：今後の展望や注目してほしいところを教えてください。

A：今後は一般社団法人を設立して本格的に活動を行っていきますし、活動の場となる空き家のリノベーションはすでに始まっています。ただ「身の丈の起業」を信条としていますので、スピードは遅いかもかもしれません。それでも一歩ずつ、確実に歩いていこうと思います。もし皆さんの力をお借りできればスピードアップしますので、ぜひ今後の活動にご協力下さい。

中尾さん、ご協力誠にありがとうございました！！